



第3回

幼稚園留学

2019

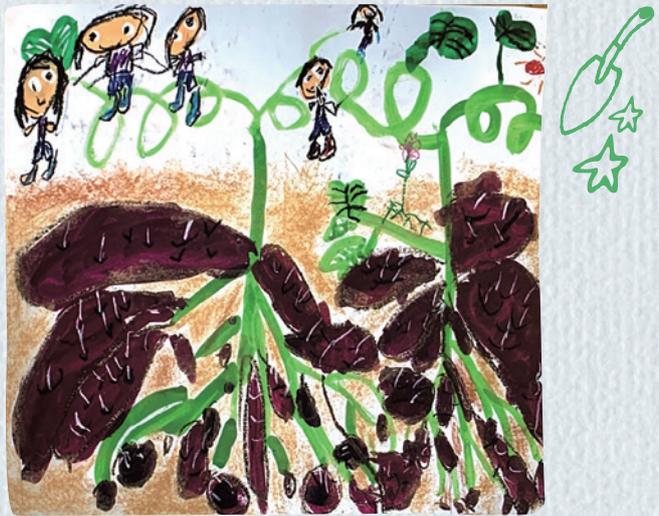
活動報告



ミンナソラノシタ 京都発 ママ達による
福島こども応援プロジェクト

目次

代表あいさつ	2
第3回幼稚園留学について	3
幼稚園留学に参加したお母さんたちのご感想	5
幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想	7
御礼	10
ミンナソラノシタの歩み	11
ミンナソラノシタの活動・幼稚園留学を通して	16
ミンナソラノシタへの支援方法	17



『代表あいさつ』

ミナソラノシタ（略称ミナソラ）の活動も、今年8年目を迎えます。これまで物心両面にわたってご支援、ご協力賜りました多くの方々にご場をお借りして深く御礼申し上げます。

2019年度の幼稚園留学は、4家族10名をお迎えし実施することが出来ました。

10月22日（日）長岡京市バンビオにて開催した講演会「未来へのバトン」の講師には、チェルノブイリ原発事故後、現地で医療支援活動された長野県松本市長・菅谷昭氏を迎えチェルノブイリからの学びを伺う予定でしたが、公務（台風19・20号への対応）でお越しいただけなくなり急遽、幼稚園留学経験者と2019年度留学中の母親に講師をお願いしました。

今年も楽しみに準備を進めていた2020年度の幼稚園留学ですが、新型コロナウイルスの終息が見えない中、誠に残念ですが中止にさせていただきます。

今年は、これまで温めてきた構想を具体化させる一年にしたいと考えています。

ミナソラの実践をよりよいものにするために、メンバーは様々な研修会や講演会に参加しスキルを上げてきました。私も昨年秋から、ボードレスジャパン主催の「ボードレスアカデミー3期生」、滋賀経済同友会主催「滋賀ソーシャルビジネスリーダー塾」を受講し学んでいます。2020年4月からは、公益財団法人信頼資本財団主催の「A-KIND塾6期生」に入塾し、更なるミナソラ発展を目指し日々奮闘中です。

来年は、東日本大震災発生から10年の節目を迎えます。震災や原発事故の問題は、人々の記憶から薄れていく一方ですが、ホットスポット、汚染土、汚染水、廃炉、低線量被曝、内部被曝等の様々な問題解決の見通しは明らかになっていません。

これらの問題解決は、子どもたちの未来に責任を持つ思いで私達にできる最善を尽くしたいと願っています。

今回、幼稚園留学に参加してくれた母親から「放射能のことを全く考えずに生活することがこれほど心を開放させる」「雨に濡れても、自然に触れてもよいことがこんなに幸せなこと」「放射能を気にせず、洗濯物を外に干せる幸せ」「私の話に耳を傾けてくれて嬉しい」といった言葉を受け取るたびに、私達は福島を忘れてはいけなさと痛感させられます。

京都には幼稚園留学に関わってくださる多くの同志がいることを知っていただきたいと「2019年ミナソラ報告集」を作成しました。福島の友にも私たちの想いが伝わると嬉しいです。

我が子の未来と同じように福島の子供達のためにも温かな眼差しで見守っていただけると幸いです。

最後に嬉しい報告があります。2020年3月11日、「ミナソラノシタ福島支部」が設立されました。福島にて福島の母親の手で「ミナソラ支部」の設立を願っていた私達にとっても大変嬉しい出来事でした。

この冊子を手にしてくださったお一人お一人が共に福島を想う仲間になってくださることを願っています。

そして、1日も早い新型コロナウイルスの終息を祈ります。

100年先も、「ミナソラノシタ」幸せな社会の実現の一助になれますようにと願いを込めて…。

ミナソラノシタ代表
林 リエ



第3回 幼稚園留学について

東京電力福島第一原子力発電所事故の被害を受けてしまった福島。

生活環境の除染もすすみ、平穏な暮らしが戻りつつありますが、中には今も日々の生活の中に不安を抱えるご家庭があるそうです。(2019年の朝日新聞の福島県民対象世論調査では放射能が自分や家族に与える影響について大いに不安を感じる人は19%、ある程度感じている人は41%という結果)

また、山林の除染ができていないために、子どもたちは以前よりも自然の中での体験がしにくくなってしまいました。

私たちミンナソラノシタは、そんな福島の幼稚園児とその家族を京都に招待し、こちらの幼稚園に通ってもらって幼稚園留学を実施しています。

幼稚園留学は、福島の子どもたち、母たちが京都で約3週間過ごすことにより心身ともにリフレッシュできることを期待して行っています。

これは、チェルノブイリ原発の事故を受けて現在もベラルーシ共和国が国策として行っている子ども達の保養（非汚染地域に21日以上滞在すること）によって体内の放射線量が半減するというデータにヒントを得たもので、大人よりも放射線の影響を受けやすい幼児に少しでも安心できる環境で心ゆくまで遊んでもらおうという取り組みです。

お母さん達には、毎日の心配事から離れ、ゆったりとした気持ちで子どもとの時間を楽しんでもらうことができます。

幼稚園留学を受け入れる側の京都の私達にとっても、福島の生の声を聞き、現状を知り、心を寄せることはとても大切なことだと思います。

幼稚園留学を通して福島の皆さんと私達の交流が深まれば幸いです。

募集

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会を通じて、各園にチラシ17,000枚を配布

参加者

4家族10名（母4名、幼稚園児4名、未就園児2名）

- 郡山市 KHさん、Aちゃん（年長）、Uちゃん（2歳）
- 郡山市 FMさん、Yちゃん（年長）
- いわき市 HYさん、Nちゃん（年少）、Fちゃん（2歳）
- 須賀川市 YRさん、Yちゃん（年中）

実施期間

令和元(2019)年
10月16日～11月2日

受け入れ幼稚園

洛西花園幼稚園
(京都市西京区)

期間中の住居

阪急東向日駅周辺の
マンスリーマンション



活動内容

子ども

はじめましての会
お芋掘り
奈良公園遠足（年長）
伊丹スカイパーク遠足（年中）
京都市動物園遠足（年少）
カーニバル
お別れ会

丸益西村屋さんで
京友禅体験



臨濟宗総本山
妙心寺で
坐禅体験

お母さん

講演会登壇（バンビオメインホール）
ママさんクッキング教室（洛西花園幼稚園）
座禅体験
ランチ交流会（妙心寺）
マクロビクッキング（ならのき薬局大原野店）



ならのき薬局さんで
クッキング



ご協力いただいた皆さま（敬称略）

幼稚園児受け入れ	学校法人花園学園 洛西花園幼稚園
食材提供	生活クラブ京都エル・コープ、生活協同組合コープ自然派京都
無料体験提供	丸益西村屋
物品・サービス提供	京都信用金庫桂川支店、ならのき薬局大原野店、津山刺繍、萩原ゆきみさん
ご寄付	生活クラブ京都エル・コープ、株式会社キリン堂、京都鉾町ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト京都ー西山、その他企業・団体・個人の皆さま
助成	株式会社ラッシュジャパン、浄土真宗本願寺派（西本願寺）、京都オムロン地域協力基金、特定非営利活動法人 JIM-NET

『幼稚園留学に参加したお母さんたちのご感想』

今回、参加させていただき家族一同とても感謝しています。

京都に行き1週間がたつくらいに「ママに怒られていないね～」と突然言われました。私は、娘を思うあまりに常に「それはやめたら～」「それもダメ」と外で普通に遊ぶ遊び、子どもの好奇心の芽を摘んでいました。

よつば、ダンゴムシ、外遊びは子どもにとってはとても成長できる無料遊園地のような場所なはずです。そんな遊びをとっても楽しそうにしていた娘は生き生きして見えました。「ママ、枯れ葉を歩いていい?」「歩くとパリパリ音がして楽しいね。」「ママお花を髪の毛に着けてラプンツェルみたいになりたいの。着けていい?」「ママ枯れ葉をワーっと花吹雪みたいにしていい?」娘は、常にママの許し

をもらわないと…と考えている子どもになってしまっていました。親として娘を守りたいが、娘の自立心、好奇心を奪っている親になっていたんだと気付かされました。

郡山に戻り、また外で遊ぶことは少なくなり息苦しいかと思いますが、今回初めて保養に参加し、娘のためにまた参加してみようと思いました。

そして、今回私たちが3週間も過ごせたのは、ミナソラさんの皆さんや、応援ご協力して頂いた皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

「出会ってしまったらお友達」とても心強いお言葉です。

また必ず京都に、お友達に会いに行きます。

「洗濯物を外に躊躇なく干せるんだ!」これが京都に来たんだと最初に実感したことです。

ベランダで洗濯し、それをそのまま外に干すという普通のこと私はまだできません。

他にも「子どもと一緒に綺麗な色の石やおもしろい形の石探しに夢中になれる」「水たまりに手をつけて遊ぶ娘を笑って見てられる」「どんぐり拾いが楽しいと感じられる」「幼稚園の芋掘りで持ち帰ったサツマイモを皮のまま食べた」など、たくさんの気づきがありました。

自分が普段こんなに気をつけて生活していたことに、京都に滞在して気が付きました。

そうして生活するのが当たり前になっていたのですね。

出発前は、まわりの人達に「保養に行く」とはなんとなく言いづらく、「幼稚園留学で京都に3週間行きます」と伝えていました。

しかし、3週間で終わって考え方が変わりました。

子どものために行動しているだけで悪いこ

とをしているわけでも無い。もっと保養が普通のことになって欲しいと思っているのに、保養に行ったことを隠すのはおかしい。

京都のママ達が福島の子どものために頑張ってくれているのに、福島に住む私が見ないふりするのは何か違う。そう思うようになりました。

私が「保養に行ってきたんだ」と話すことで、実は保養が気になっていたお母さんが話しかけてきてくれるかもしれません。

貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。



この度は京都で3週間、福島私達を受け入れてくださりありがとうございました。

子どもは京都の幼稚園に通わせて頂き、ママたちは子どもの為にご飯を作るという京都にいながらいつもと変わらない生活ができたということがとても幸せな事でした。

福島では子どもと公園で遊んでいる時や庭で遊んでいる時、放射能の事が常に頭の片隅にあります。

京都ではそのことから解放され子どもが自然の中を駆け回りキレイな石を探している姿を穏やかに見守る事ができました。

今回の体験から例え限られた時間であっても少しでも空気のキレイな場所に身を置いてあげたいと思いましたので、今後も定期的に保養をしていきたいと思いました。

そして放射能の事に限らず、今回福島からきた子ども達と私達が京都の幼稚園のおとも

だちやママさん達とかかわり交流できた事はとても大きな事です。

子どもにはいろいろな人とかわりながら今後の困難も乗り越えていけるように強く育ててほしいと思います。

本当にありがとうございました。



素敵なお縁を頂き京都で過ごした3週間は長いようであっという間でした。

娘は今回初めての環境で不安や戸惑いを感じたと思います。でも、福島から一緒に参加したご家族や花園幼稚園の先生方、周りの方に支えて頂きながら毎日楽しく過ごす事ができました。沢山のお友達と初めてのお芋ほりを体験したり、遠足に行ったり、いつもと違う幼稚園生活を楽しんでいました。ニコニコしながら頂いたお手紙やどんぐりを飾っている姿も印象的でした。新しい事に挑戦した娘は少し自信を付けてたくましくなったのではないかと思います。

快く送り出してくれた主人と上の子2人は留守中の思いを手紙で届けてくれました。

家族が離れて暮らすのは初めてで心配事もありましたが、会いにきてくれた時に「留守番頑張っているよ。心配しなくても大丈夫だよ」と誇らしげに言った長男と長女は私が思う以上に成長しているのだと感じ嬉しくなりました。それぞれが自立や家族の有難みを実感できた良い機会でもありました。

福島を気にかけて応援してくれるミンナソラノシタの皆さんは私たちが見知らぬ土地でも不安なく暮せるよう沢山の準備をして迎えてくださり、お会いするたびに困っていることがないか尋ねて下さいました。そんな温かさに見守られていたおかげで笑顔あふれる毎日過ごすことができました。感謝の気持ちでいっぱいです。子育て、お仕事、ミンナソラノシタの活動をする皆さんの姿に励まされ私も福島で頑張ろうと思いました。またお会いできるのを楽しみにしています。



『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

ミンナソラノシタの活動に賛同し幼稚園留学を受け入れ今回で3度目となりました。

幼稚園留学直前に発生した台風19号で幼稚園留学が出来るだろうかと心配しましたが大きな被害もなかったとのこと安心しました。しかしながら豪雨災害に遭われた方々には、心よりお見舞い申し上げます。

今回は、年長組2名、年中組1名、年少組1名、の福島在住のお子様を令和元年10月16日（火）から11月2日（土）までの3週間受け入れさせていただきました。

初日から福島の子どもたちは元気に登園し、自園の制服に身を包み笑顔一杯でクラス担任やお友達と顔を合わせました。

今回も幼稚園留学の期間に合わせ行事を組み込み、子どもたちには遠足、園庭遊び、子どもカーニバル、福島県のお母さま方にはママさんクッキングや本山妙心寺での参拝や座

禅など企画し、親子で太陽の下、京都の思い出をたくさん作って頂きました。

そんな中、以前自園で幼稚園留学に参加されたご家族が幼稚園に遊びに来てくださり大きく成長した子どもたちにも会うことができ何よりうれしい気持ちになりました。そして今も尚、ボランティア活動をされていることに感銘を受けました。

原発事故からの影響で生活環境がまだまだ改善されていない状況でもありますが、こうしてミンナソラノシタのスタッフの方々をはじめ、たくさんの企業の方々のご協力があったからこそ幼稚園留学が実現させてもらえたことに感謝いたします。これからも少しでも福島の子どもたちが笑顔になれるお手伝いが出来たらと思っています。

洛西花園幼稚園 園長 小山内 定代

本年も4家族、10名の皆さまが幼稚園留学に参加され、放射線による影響を気にすることなくのびのびと時間を過ごされると共に京都の皆さまとの絆を深められた事、また微力ながら幼稚園留学に弊社も助成金を通しご協力できた事を嬉しく思います。

本年度はこれまでの幼稚園留学参加者の方がサポーターとして係ってくださったり、希望者に対し甲状腺検査や尿検査をご提供されたりと嬉しい変化や新たな試みがあったと伺っております。

参加された方々の感想を拝見させていただきましたが、参加されたご家族が外遊びや自然とのふれあいがあふれた京都での生活を満喫された様子が伝わってきました。

また、東日本大震災、福島第一原発の事故より9年という時の経過と共に、放射線の影響への不安を口にすること、周りの人と共有することが難しい環境が生まれているという事も感じ取れました。そんな中、同じように子どもの健康・幸せを願い、不安や問題意識を共有できる福島からの参加されるママ同士、そして京都の皆さんとの出会いは参加されたみなさんにとってこの3週間だけでは終わらないかけがえのないものであったのではないかと思います。皆さまの友達の輪がますます広がっていかれますように。

株式会社 ラッシュジャパン
チャリティバンク事務局 種村 香奈美

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

ミナソラノシタさんへの支援も3年目を迎えます。特に今年度は関わりの深い年となりました。

まず、9月4日「100年先もミナソラノシタ」で幼稚園留学の活動についてお話を聞きました。生活クラブ京都エル・コープでも、脱原発活動の一環として2011年からリフレッシュツアー（被災者保養活動）を行ってきましたが、他団体の保養活動を知り参考にしたいという組合員の要望が出ていました。そんな中、今回活動について詳しく話を聞く会が実現でき嬉しく思っています。

続いて、10月22日菅谷松本市長講演会。縁あって協賛することとなり、ミナソラノシタさんの熱意ある行動に触れることができました。菅谷氏の講演は実現しませんでした。幼稚園留学に来られたお母さんたちからお話を聞くことができ福島の現状を知ることができました。

ミナソラノシタのみなさんの、「福島から来られるみなさんが、京都で過ごす間より安心安全な食材を食べてほしい」との想いを受け、今年も、コープ自然派京都の活動の中で共有、募ったカンパでコープ自然派の食材を購入し、提供させていただきました。

東日本大震災、原発事故の事への関心が薄れていってような雰囲気の中、メンバーには子育て中のお母さんも多いミナソラノシタの方々が、お忙しい中、大変な事も山盛りあったと思いますが、想いを持って楽しそうに震災後からずっと続けて活動されている事、素晴らしく、共感を覚えます。

福島のお母さんの不安な中子育てしている事、保養に行くとは言えない状況、など現状を聞いていて本当に辛かったです。今回は、幼稚園留学の前に、生活クラブ京都エルコー

最後に、幼稚園留学で京都に来たご家族への食材提供を行いました。これは当生協が2017年から継続してきた活動で、せっかく放射線量の低い地で過ごすのなら、安全基準の厳しい安心なものを食べて、更に元気になってほしい。そういう思いを込めて、当生協の組合員のカンパ金から食材を提供しました。できましたら次の機会には提供食材に対する感想をいただけたら、よりご家族の希望に沿った形で食材を提供できるのではと思います。

こうした今年度の密なミナソラノシタさんとの交流が、私たちの活動の刺激にもなったと感じています。

今後のミナソラノシタさんのご発展を、お祈り申し上げます。

生活クラブ京都エル・コープ
脱原発委員会 竹田 圭子

プの皆さんとともに、ミナソラノシタの活動について共有する会も開催しました。その中で、他の保養の活動、支援されてる方たちとの繋がりもうまれ、とても良かったです。

100年後もミナソラノシタで幸せでいられるように。

今、わたしたちが生協として取り組めることは、食材の提供、関連イベントの開催などで保養の必要性を伝え広げることと思います。もうひとつは、本来、安心して暮らせる事や保養について、国や東電がやるべき事をボランティアで取り組んでいるのが現状、その事にもなんとか働きかけていきたいと思えます。

生活協同組合コープ自然派京都
組合員理事 高尾 美香

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

東日本大震災から約9年という月日が流れ、福島県をはじめ震災で被害にあった地域に住んでおられる方々の生活は、ある程度震災前の水準に戻っていると思われる方がほとんどだと思います。ミンナソラノシタさんとの関わりがなければ、私もそうでした。

しかし、今もなお、福島においては子ども達が外で元気に走り回るといった当たり前の事さえ安心してできないような生活が続いている人たちが、中にはいるのです。

以前読ませていただいた「幼稚園留学に参加したお母さんたちの言葉」の内容を思い出す度に、震災の記憶は決して風化させてはいけません。またこれからの未来に向けて、誰かがバトンをつないでいかなければならないと改めて強く思います。

昨年10月に開催された講演会に私は参加することができなかったのですが、ミンナソラノシタさんのホームページの「日々の活動日記」で、幼稚園留学に参加された皆さまの楽しそうな笑顔を拝見させていただきました。その笑顔から、ミンナソラノシタさんの活動がいかにも素晴らしいものであるかという事を再認識する事ができました。これからも福島県の皆さまに寄り添い、活動を続けていられる事と思います。ミンナソラノシタさんの活動の輪が日本中に広がり、未来のすべての子ども達が幸せに暮らしていける事を心から願っております。

キリン堂 総務部課長 西村 荘二

京都信用金庫はミンナソラノシタ様の活動に共感し、活動当初から幼稚園留学のサポート企業紹介や各種イベントのお手伝い等を行ってまいりました。

平成23年3月11日の東日本大震災から約9年が経過し、当時は毎日ニュースで取り上げられていた福島原発事故に関するニュースはほとんど聞かなくなり、世間の関心は薄くなっているのが現状だと思います。私は今回初めてミンナソラノシタ様の活動に参加させていただき、実際に福島にお住まいのママさんから土壌汚染、放射能汚染は完全には改善されておらず、外で遊んだり、洗濯物を外に干すことに抵抗がある、食べるものも制限される等の実情をお伺いしました。イメージとの違いにショックを受

け、改めて東日本大震災を忘れてはいけない、何とかしたいという気持ちになりました。このようなミンナソラノシタ様の活動を継続していただくことで、より多くの方に福島の現状を伝えるきっかけになり、参加された方々の輪を広げることで大きな力になることを信じております。

京都と福島は遠く離れてはいますが、私たち京都信用金庫は地域金融機関として少しでも早く子どもたちが笑顔で暮らすことができる環境となれるよう、ミンナソラノシタ様の活動を今後ともお手伝いしていきたいと思っております。

京都信用金庫 桂川支店 支店長 井幡 慎二

『幼稚園留学にご協力いただいた皆さまのご感想』

福島県からいらっしゃるお母様達から、ニュースでは知れない貴重なお話を今年も聞くことができました。皆さまと楽しく過ごさせて頂き母として通じ合い福島をととても近く感じることができました。お友達になれた子達もそのように感じていればいいなと思います。

距離は遠くても気持ちは近くに。いつまでも想っていたいとおもいます。

洛西花園幼稚園 保護者
ママさんクッキング講師 金 梓



ママさんクッキングにて

『親子留学等の御礼』

平成23年3月11日の東日本大震災・東京電力福島第一原発事故により福島県の子どもたちの日常生活が一変した日から9年が経過しました。

未だに18歳未満の県外避難者は6千名を数え、多くの県民が県外・県内に避難しています。県内各地域の事情は異なりますが、子どもたちは、除染が進み、園庭での外遊びが出来るようになってきました。改善されつつありますが、転びやすい、体力低下、肥満、親子のこころのケア等々大きな課題が山積しています。

県内各園の教職員は、子どもたちが心身ともに健やかに成長し、日々笑顔で過ごせることを願い、安全・安心・健康・育ちを保障するため保育の工夫等、最善の幼児教育環境構

築のため一丸となり、子ども・保護者に寄り添いながら努力を続けています。

9年間の長期に渡り、福島の子どもたち・保護者支援のため、室内あそびの砂等々支援物資の寄贈や京都での親子留学、教職員留学での、放射線など心配せず外遊び、皆さまと交流等で過ごせる楽しい日々は、子ども・保護者・教職員にとって一生忘れられない「宝物」となっています。

ミンナソラノシタ様、多くの関係者様の特段のご高配、ご支援により、福島の子どもたち・保護者が笑顔で元気で過ごせるようになりつつあります。衷心より感謝申し上げます。

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会
理事長 平栗 裕治

2013-2019

ミンナソラノシタの歩み

8月

まこと幼稚園(京都府向日市) おこないプロジェクト発足

原発事故後、保育環境の変化に苦勞されている福島の幼稚園の先生を京都に招くプロジェクトがまこと幼稚園で始動。

平成
24年
(2012年)

平成
25年
(2013年)

8月

製品デザイン決定

イラストレーター黒田征太郎さんより、デザイン原画15点を無償提供していただき原画展を開催。投票でデザインを決定。



11月

福島訪問

郡山市 大槻中央幼稚園訪問
福島市 福島市子ども支援課訪問

7月

ミンナソラノシタ発足

おこないプロジェクトに参加し、福島の問題には持続的な支援が必要だと実感した林リエ代表が、福島支援団体を設立。「100年先もみんな空の下で幸せに暮らしてほしい」という想いで、「ミンナソラノシタ」と命名。子育て中のママたちが主なメンバー。

オリジナルグッズ企画

収益を福島支援に活用するため、オリジナルグッズ製作を企画。



9月

商品決定

手さげカバン

(製作：NPO法人リンデン福祉会)

ショルダーバッグ・トートバッグ

(製作：一澤信三郎帆布)

ポストカードを作成



2月

新製品キックオフイベント開催

新風館（京都市中京区）にて、新製品のお披露目会を開催。

黒田征太郎さんによる「木端アートワークショップ」で完成した作品を福島の幼稚園に寄贈。来場者200名。



「室内砂場の寄贈」を目標に

砂場遊びが出来ない福島の幼稚園に「室内砂場」を贈ることを設定。

2月

講演会

「チェルノブイリから学ぶこと」開催

講師：馬場朝子さん

9月

講演会

「世界と福島と私たち…」開催

講師：岡本知之さん 平栗裕治さん

11月

どんぐりひろいイベント開催

桂中学校とのコラボグッズ完成



平成
26年
(2014年)

3月

ミナソラオンラインショップ開設

9月

ミナソラサポーターショップ開設

11月

どんぐりひろいイベント

勝山公園（向日市）で拾ったどんぐりを、外遊びが制限されている大槻中央幼稚園（郡山市）に寄贈。



平成
27年
(2015年)

3月

郡山市私立幼稚園協会総会に出席

オーストラリア産ホワイトサンド8トンの目録を贈呈。



2月

「小さき声のカノン」上映会 & 鎌仲監督トークショー開催



新製品「こどもぼうさいスケッチブック」完成

9月

株式会社キリン堂と包括協定締結

11月

どんぐりひろいイベント開催

2月

幼稚園留学キックオフミーティング開催

5月

福島県私立幼稚園・認定こども園連合会総会にて幼稚園留学の説明

9月

チャリティコンサート開催

出演：キッサコ・mapama・ゆあさまさや・安田旺司



12月

ザ・リッツカールトン京都クリスマスギフト×ブラックファースト協力
～福島の子どものためのクリスマスギフト持参で、心あたたまる朝食を～

平成
28年
(2016年)

4月

講演会
「近くの原発が動きだした…私たちの防災教育」開催

講師：小出裕章さん 守田敏也さん

5月

こどもがまんなかフェスティバル(郡山市私立幼稚園協会主催)にこどもぼうさいスケッチブック1000冊寄贈



平成
29年
(2017年)

3月

京友禅体験&広域避難者交流会(丸益西村屋)開催

10月

幼稚園留学実施

福島県から4家族13名の母子を3週間招待。

受け入れ幼稚園：大原野幼稚園 洛西花園幼稚園



5月

福島県私立幼稚園・認定こども園 連合会総会にて幼稚園留学の説明



平成
30年
(2018年)

10月

幼稚園留学実施

福島県から4家族12名の母子を3週間招待。

受け入れ幼稚園：洛西花園幼稚園

ミナソラ秋まつり開催

会場：SU・BA・CO（株式会社リヴ）
洛西口つつじ公園

- 福島のお母さんを囲むお話し会
- 福島伝統工芸「あかべこ・起き上がり小法師」絵付け体験
- 「おとくに竹あそびの会・竹遊会」竹遊具
- 「おもちゃばこのみんな」子どもあそび
- ミナソラマルシェ 来場者：250名

3月

ラッシュチャリティパーティー 開催

ラッシュ京都四条通り店にて
ミナソラのパネル展示。

店頭で活動紹介。

当日のチャリティポットの
売上全額を寄付していただく。



平成
31年
令和
元年
(2019年)



10月

幼稚園留学実施

福島県から4家族10名の母子を3週間招待。

受け入れ幼稚園：洛西花園幼稚園

10月

講演会「未来へのバトン」開催

講師：猪股美奈さん（郡山市）、伊藤抄子さん（郡山市）、2019幼稚園留学参加者2名

来場者：200名



3月

ミナソラノシタ福島支部設立

令和
2年
(2020年)



福島の子どもたちも応援

室内砂場を寄贈

子どもがまなかフェスティバル（郡山市私立幼稚園協会主催）に室内砂場用ホワイトサンド8トンを寄贈（2015年）



こどもぼうさいスケッチブックを寄贈

子どもがまなかフェスティバルにスケッチブック1000冊を寄贈（2016年）



ハンドソープを寄贈

イオン幸せの黄色いレシートキャンペーンで得た資金や、石鹸メーカーのご協力でハンドソープを寄贈（毎年）



- ・関西テレビで放映
「スーパーニュースアンカー」（2014、2015年）
「めざましテレビ」（2015年）
「ゆうがたLIVE ワンダー」（2015年）
「報道ランナー」（2018年）
- ・NHKテレビで放映
「ニュース610京いちにち」（2014、2017、2019年）
- ・読売テレビで放映
「かんさい情報ネットten.」（2018年）
- ・テレビユー福島で放映（2017年）
- ・KBS京都ラジオに出演
「笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ」（2014、2016、2017年）
- ・京都三条ラジオカフェ（FM79.7）に出演
「ハローラジオカフェ～おはようさんどす」（2017年）
「Happy NPO」（2017年）
「わくわく京の公共人材！」（2019年）
- ・FMおとくに出演
「リヴ☆ラジ」（2019年）

- ・京都市立桂中学校で活動紹介（2015、2017年）
- ・京都市立洛西中学校で活動紹介（2018年、2019年）
- ・芦屋市立小槌幼稚園で活動紹介（2015年）
- ・講演会「100年先もミナソラノシタ」：長岡京エンパワネット主催（2016年）
- ・講演会「ミナソラノシタ幼稚園留学とは？」：コープ自然派京都主催（2017年、2019年）
- ・大阪NPOセンターにて講演（2018年）
- ・堺市市民活動コーナーにて講演（2018年）
- ・講演会「100年先もミナソラノシタ」：コープ自然派京都、生活クラブ京都エル・コープ主催（2019年）



- ・第8回ソーシャルビジネスプランコンペ（大阪NPOセンター）グランプリ（2015年）
- ・あしたのまち・くらしづくり活動賞（あしたの日本を創る協会）振興奨励賞（2015年）
- ・第7回京の公共人材大賞（京都府）最優秀賞（2019年）

今までいただいた補助金・助成金

- 京都府地域力再生プロジェクト 交付金
- タケダ・赤い羽根広域避難者支援プログラム
- 京都オムロン地域協力基金
- 子どもゆめ基金
- 京都新聞社会福祉事業団
- 向日市社会福祉協議会
- 庭野平和財団
- キリン堂
- ラッシュジャパン
- 浄土真宗本願寺派（西本願寺）

寄付金

多くの企業、団体、幼稚園、個人の皆さまから、多額のご寄付を頂戴しました。紙面の都合上、お一人おひとりのお名前は記載していませんが、厚く御礼申し上げます。

『 ミナソラノシタの活動・幼稚園留学を通して 』

お住まいの準備など、生活面の担当者です。思い起こせば、2年前の第一回幼稚園留学の住まいは、初めてのことで勝手がわからず準備がとても大変でした。

しかし最近は家電の整ったウィークリーマンションを手配するようになり、準備がとても楽になりました。留学されるご家庭の方が福島に居ながら事前にマンション設備の情報を得られることも大きな利点です。また、ご家庭ごとに部屋を分けられるようになったのでゆったり滞在してもらえるようにもなりました。

ところが準備万端のつもりでも当日になって思わぬ事って起きるものです。オートロックのマンションなのに外にインターホンがなく、これでは物をお届けしても部屋につながりません。そこで食材を届けて下さる生協さんには留学ママの携帯番号をお伝えして連絡してもらおうことにしました。

このように私たちも驚くような事が起きますが、心を込めて準備しています。

来年もミナソラ一同お待ちしております！

ミナソラノシタ 小塚 真緒

昨年度、わが子が通う幼稚園が幼稚園留学の受け入れをして下さったことがご縁で、福島県の現状とミナソラノシタの活動を知りました。

そして今回、ミナソラメンバーとしては初めて幼稚園留学に携わり、こんなにも多くの準備や調整などが、ボランティアや、協力して下さる方々の善意だけで成り立っていることに、ただただ驚きと感謝の気持ちです。

私自身はあまり多くのことはできませんでしたが、元気いっぱいのお友だちに会うたびに、「やれて良かったな」という嬉しい気持ちと、「この活動が不要になる日がくるといいな」という祈りのような複雑な気持ちを感じました。

この活動を通じて今まで知らなかった様々な現

実を知り、理不尽なことへの怒りや悲しみに心が負けそうになることが、今でもあります。

けれど、それだけではありません。家族を想い日々悩みながら決断されている福島のお母様方、子どもたちを温かく受け入れて下さる幼稚園の先生方、そして、尊敬する素晴らしい仲間との出会いに、私はたくさんの力をもらいました。

「微力でも無力じゃない。自分が今できる最善を尽くす。」

これはきっとミナソラメンバー共通の想いだと思います。全ての子ども達がいつまでも笑顔で暮らせる様に、自分ができる最善を尽くしたい、この活動を通してそう思えるようになりました。

ミナソラノシタ 森 菜奈子



ミンナソラノシタへの支援方法

私達の活動を
支援してください!!

1 信頼資本財団の「共感助成」を通じて寄付する

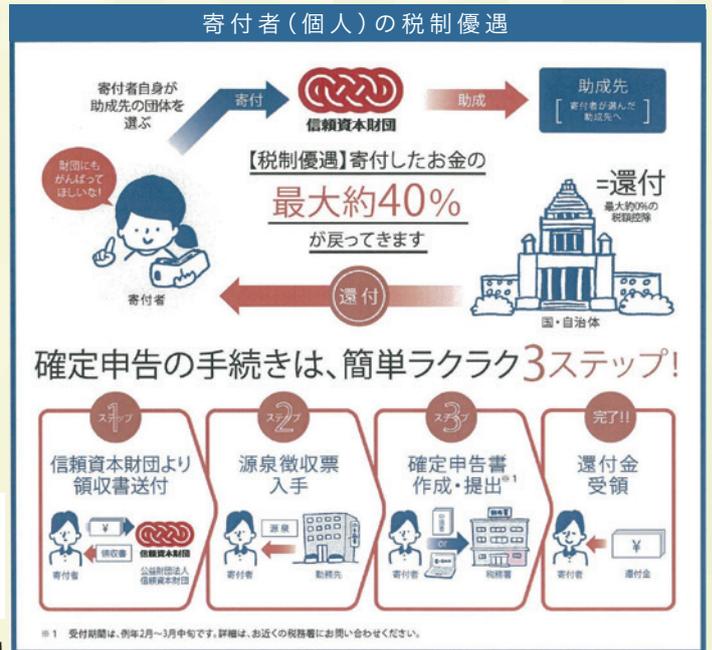
ミンナソラノシタの活動が、公益財団法人信頼資本財団より社会問題解決に積極的に貢献していると認定され、財団を通してご寄付の支援先に指定されました。これにより、信頼資本財団を通してミンナソラノシタにご寄付いただくと、税制優遇を受けられるようになりました。詳しくは、信頼資本財団のホームページよりご確認ください。

ミンナソラへのご寄付はこちらから

信頼の寄付サイト ミンナソラノシタ



もしくは
QRコードより



2 ミンナソラノシタに直接寄付をする

- ゆうちょ銀行 四四八支店
〈店番〉 448 〈預金種目〉 普通預金 〈口座番号〉 2664783 〈口座名〉 ミンナソラノシタ
※ゆうちょ口座間振込みの場合、記号14450 番号 26647831
- 京都信用金庫 桂川支店
〈店番〉 047 〈預金種目〉 普通預金 〈口座番号〉 3012451 〈口座名〉 ミンナソラノシタ

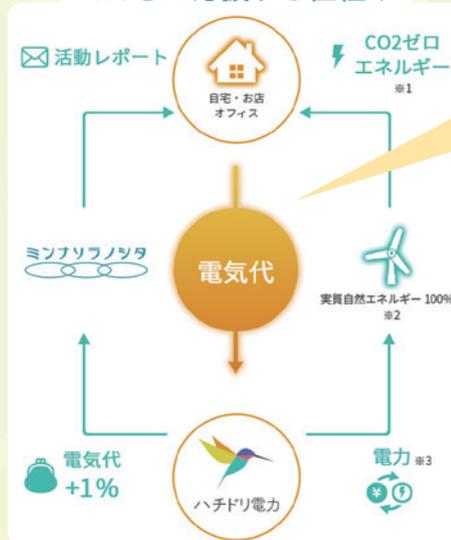
3 ハチドリ電力を利用して支援する

ハチドリ電力は、CO²ゼロのエネルギーを提供し、自宅や会社の毎月支払う電気料金の1%が社会のために頑張る人の支援になります。電力を切り替え、ミンナソラノシタを指定していただければ、電気料金の一部が活動の支援になります。

たった5分で完了! 簡単3ステップ

- 1 検針票をみながら必要情報を入力
- 2 支援したい団体を選ぶ
- 3 登録完了

でんきて応援する仕組み



ハチドリ電力は
月500円の会費だけ

利用料金を利益の上乗せ無し

会費 500円 ※1 + 利益の上乗せ 0円

※1 一般家庭のお客さまの場合の会費です。法人のお客さまの場合は500円~2,000円の会費になり、電気の使用量によって決定されます。

※2 ここには「電気を買う費用」、「電気を調整する費用」、「電気を送る費用」、「事業を行う費用」、「再生エネルギー100%の電気の供給を実現します」が含まれています。

※3 ハチドリ電力は、非化石証書(再生エネルギー)を調達することで、「CO²排出係数ゼロ」を達成する予定です。

※4 非化石証書(再生エネルギー)の購入により、実質的に、自然エネルギー100%の電気の供給を実現します。

※5 ハチドリ電力は、自然電力株式会社の取次事業者です。実際の電気の供給は、小売電気事業者である自然電力株式会社により行われます。

ご家庭・オフィスの電力使用量に
合わせた料金シミュレーションはこちら



ハチドリ電力 ミンナソラノシタ

で検索

URL : <https://hachidori-denryoku.jp/> TEL : 092-402-1115

4 オリジナルグッズをHPで購入して支援する

グッズの情報はミンナソラノシタ
ホームページ、もしくは右のQRコード
よりご確認ください



ミンナソラノシタオリジナル

こどもぼうさいスケッチブック

¥500

(1冊につき¥100の寄付)



ミンナソラノシタ×黒田征太郎×リンデン

手さげカバン

¥2,000

(1つにつき¥300の寄付)



ミンナソラノシタ×澤信三帆布

ショルダーバッグ

¥12,000

(1つにつき¥2,000の寄付)

5 オリジナルグッズをサポーターショップで購入して支援する

ミナソラサポーターショップのご紹介

こちらの協力店舗でミナソラの「手さげカバン」を販売してくださっています。
販売利益は全額福島子ども応援基金にご寄付いただいています。

マルヤス (向日市立向陽小学校横)
京料理 松長 (京都市中京区高倉通御池)
Honda Cars 乙訓 (向日市上植野)
リヴ本社SU・BA・CO (向日市寺戸町)

Books&Cafe Wonderland (JR向日町駅前)
リンデン福祉会 (京都市北区紫野)
マツヤマ ラクセーヌ店 (京都市西京区)

6 オリジナルグッズを園の指定用品や記念品に採用して支援する



「手さげカバン」や「こどもぼうさいスケッチブック」を、バザーや記念品、指定用品として
全国各地の幼稚園に採用いただいています。

入園・入学で必要な物に選んでいただくことが、継続的な福島の子どものための応援につながります。
皆さまのご協力をどうぞよろしくお願い致します。

<後援>

公益財団法人福島県私立幼稚園・認定こども園連合会、福島県郡山市私立幼稚園協会、京都信用金庫

<special thanks>

黒田征太郎 (株式会社エスエーエス)、株式会社一澤信三帆布、特定非営利活動法人リンデン福祉会、
株式会社キリン堂、京都鉾町ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト京都一西山、PrintK株式会社

ミンナソラノシタ 第3回幼稚園留学2019活動報告

(発行日: 2020年5月1日)

発行・編集

ミンナソラノシタ事務局

〒600-8127 京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1

京都市市民活動総合センターメールボックス40番 ミンナソラノシタ

TEL 080-2540-3224 FAX 020-4667-7721 ✉ mail@minasora.org

おおきに♡



みんなソラノシタ



2019/10/22
講演会「未来へのバトン」